

2019年度「フィールド実習」一覧

2019年3月6日
文学学術院

名称 **中国語による入門演習——中国でコミュニケーションを実践する**

指導教員 **千野 拓政**

受入機関

上海大学中文系・文化研究系

費用

約16万円(往復航空費等の諸費用を含む)

実習場所

中国上海市上大路55号上海大学中文系・文化研究系

活動期間

2019年9月30日～2020年1月 27日(準備ゼミ)(8日間/計12時間)
2020年3月3日～2020年3月 11日(実習)(9日間/計37.5時間)
(受け入れ機関の都合で変更の可能性あり)(総計16日間/49.5時間)

主な活動内容

- ①4日間午前中2コマ、担当教員の立ち会いの下に、上海大学の学生とともに上海大学の教授の中国語による語学授業を受ける。
- ②午後1コマ、中国人学生を相手にプレゼンテーション、コミュニケーションを行う。
- ③授業終了後2コマ、毎日一つ課題を設け、専門班と合同して、学内外で調査活動をおこなう。(例えば、上海の物価調査、学生生活インタビュー、上海各市区[旧県城、旧租界、建国後の開発区、近年の開発区など]の特徴の観察など。上海大学の学生が付きそう。)最終日に報告会を行い、成果を中国語で報告する。
- ④自由行動日を設け、グループに分かれて市内にでかけ、観察・調査を行う。調査対象は各グループが自己申告する。(5コマ)
- ⑤魯迅記念館、魯迅故居などを訪れ、解説員の中国語による説明を聞く。
- ⑥初級演習班の学生(1年生が主体)は、専門班と合同で調査活動を行うことで、パートナーシップの養成を図る。

評価方法 : ①秋期隔週開講の実習準備ゼミにおいて、リスニング、資料の解読、中国語による授業の受講を課す。与えられた課題をすべて終了することが求められる。
②上海での実習に参加し、中国語による授業、中国の学生相手のコミュニケーション、学内・市内での観察・調査活動を行う。(事前に授業の教材などは予習しておくことが求められる。)

募集時期 : 9月19日～9月30日(秋期科目登録開始日から面接当日まで)

選考方法 : 文学学術院で1年間中国語を履修した程度の語学力を有すること。ならびに秋期に隔週開講する実習準備ゼミに参加し、中国語による授業、リスニング、プレゼンテーションなどの訓練を受けたうえで、実習に参加すること。
9月30日(月)6限に千野研究室で面接選考を行う

備考 : 実習準備ゼミは秋期・隔週月曜6限に千野研究室で行う。
海外への学生引率助成を申請の予定(毎年申請している)

2019年度「フィールド実習」一覧

2019年3月6日
文学学術院

名称 中国語による専門演習——中国で専門ゼミを実践する

指導教員 千野 拓政

受入機関

上海大学中文系・文化研究系

費用

約16万円(往復航空費等の諸費用を含む)

実習場所

中国上海市上大路55号上海大学中文系・文化研究系

活動期間

2019年9月30日～2020年1月27日(準備ゼミ)(8日間/計12時間)
2020年3月3日～2020年3月11日(実習)(9日間/計37.5時間)
(受け入れ機関の都合で変更の可能性あり)(総計16日間/49.5時間)

主な活動内容

- ①4日間午前中2コマ、担当教員の立ち会いの下に、上海大学の学生とともに上海大学の教授の講義を受けル。
- ②午後1コマ、課題に即して日中双方の学生が報告・討論する。
- ③討論終了後2コマ、毎日一つ課題を設け、入門班と合同して、学内外で調査活動をおこなう。(例えば、上海の物価調査、学生生活インタビュー、上海各市区[旧旧城、旧租界、建国後の開発区、近年の開発区など]の特徴の観察など。上海大学の学生が付きそう。)最終日に報告会を行い、成果を中国語で報告する。
- ④自由行動日を設け、グループに分かれて市内にでかけ、観察・調査を行う。調査対象は各グループが自己申告する。(5コマ)
- ⑤魯迅記念館、魯迅故居などを訪れ、解説員の中国語による説明を聞く。
- ⑥専門演習班の学生(1年生が主体)は、入門班と合同で調査活動を行うことで、リーダーシップの養成を図る。

評価方法 : ①秋期隔週開講の実習準備ゼミにおいて、リスニング、資料の解読、中国語による授業の受講を課す。与えられた課題をすべて終了することが求められる。
②上海での実習に参加し、中国語による授業、中国の学生相手のコミュニケーション、学内・市内での観察・調査活動を行う。(事前に授業の教材などは予習しておくことが求められる。)

募集時期 : 9月19日～9月30日(秋期科目登録開始日から面接当日まで)

選考方法 : 文学学術院で2年間中国語を履修した程度の語学力を有すること。ならびに秋期に隔週開講する実習準備ゼミに参加し、中国語による授業、リスニング、プレゼンテーションなどの訓練を受けたうえで、実習に参加すること。
9月30日(月)6限に千野研究室で面接選考を行う。

備考 : 実習準備ゼミは秋期・隔週月曜6限に千野研究室で行う。
海外への学生引率助成を申請の予定(毎年申請している)

2019年度「フィールド実習」一覧

2019年3月6日
文学学術院

名称 **海外で実践的に学ぶ、文化人類学フィールド実習**

指導教員 **西村 正雄**

受入機関

ラオス人民民主共和国政府、情報文化観光省、ラオス国立大学

費用

約26万5千円(航空券、宿泊費、食費、現地講師謝礼を含む)

実習場所

ラオスの都市: ヴィエンチャンとパクセ; および、ラオス南部、チャンパサック県チャンパサック郡村落地域

活動期間

2019年12月23日～2019年12月31日 (9日間)

主な活動内容

<目的>文化人類学の本格的なフィールド調査の方法について、実際の海外の現場で、個人的に指導することを目的とする。本に書かれたものをそのまま学ぶのではなく、実践的にフィールド技術を学び、それを現場で臨機応変に応用する能力を身に付けさせることをめざす。

<方法>①他文化の中で、どのように人間関係を築くため、基本としてのあいさつ、付き合い方などを学ばせ、そこからインタビューを通して良好な人間関係を築く方法を教える;②参与観察法を学ばせる。現場にいて、文化的差異に気づかせる感覚を磨く;③特に、農村社会に入るため、文化人類学的に農民の社会を描写方法を学ばせる;④最後にそうした経験をフィールドノートに書き留める方法を教え、それを基に、民族誌として書いてまとめることを教える。そうしてできた民族誌をレポートして提出させ、成績評価とする。

評価方法 : 出発前に、5回ほど事前授業を行う。授業の内容は以下の通り:①イントロダクション(科目設置の目的の説明);②文化人類学と、文化人類学におけるフィールドワークについて;③ラオスという国:地理的概況と歴史;④現在のラオス:経済、政治、開発問題など;⑤フィールド地域の概況。
また、こうした授業以外に、出発前に旅行ルート、保険、要望接種、海外安全情報などの説明で、業者を招いて、数回オリエンテーションを開く。さらに、一回、保護者説明会を開く。

募集時期 : 2019年4月1日～2019年7月31日

選考方法 : 第1次選考として、科目を希望した理由を書いてもらう(メール上)書類選考を行う。その後、面接による2次選考を行う。

備考 : 本授業は、すでに過去15年にわたって行ってきた授業の上で行うものである。この間、健康問題もなく、無事故で行ってきた。これは現地政府との緊密な連携の者に行われてきたためであり、本授業もこの緊密な連携の上で、細心の注意を払って行われるものであることを強調しておく。

2019年度「フィールド実習」一覧

2019年3月6日
文学学術院

名称 EU圏(チェコを中心に)で学ぶ東アジアの共生と和解の可能性

指導教員 金敬黙・高野孝子

受入機関

費用

チェコ共和国マサリク大学社会科学部(Masaryk University, Czech Republic) Professor Taesik KIM

25万円以内(実習期間中の交通費、宿泊費、プログラム費+往復航空費等)

実習場所

プラハ、ブルノ他チェコ共和国を中心に

活動期間

・事前学習 6月11日(火)、6月25日(火)、7月9日(火) (4日間/計9時間)
・フィールド実習 8月30日~2019年9月7日(実習)(9日間/計60時間)
・事後学習 9月24日(火) (1日/3時間)
(総計11日間/計68時間以上)

主な活動内容

本実習は、EU圏(チェコ)というフィールドにおいて、社会構築論系が目指す「過去に学び、現在を知り、未来を拓く」ことを実践する。参加者には、異文化、とくに非アジア(EU圏)という空間軸からグローバル化時代の現実の社会に存在する問題を見つけだし、それを解決するための力を養い、その力をもとにして実際の社会で実践的に活動できるようになってもらいたい。そのため具体的には、難民、移住者(ベトナム系を中心とするアジア系移民)などの集住地域などを訪問し、移住と定住、そして共生に向けてのフィールドワークを実施する。その上で、社会調査やフィールドワークなど質的研究の方法論を身につけ、問いの具体化や検証に向けてのアプローチに関する実地調査を行う。
キーワード: 移住と定住、多文化共生の批判的考察、国民国家とEU、ポスト社会主義と資本主義、差別と偏見、都市と文化、フィールド調査、東アジアの過去、現在、未来。

評価方法 : 事前学習時には、小テーマごとにリサーチし、中間報告の上でグループプレゼンを行う。実習参加後には、事後学習のあと、別途、公開の報告会を実施する。

募集時期 : 2019年4月10日-4月21日 (別途、追加募集を行うこともある)

選考方法 : ・本実習に応募した動機を明示した志望理由書(日本語1800字以上、英語450words以上)をもとに英語による面接(4月22日-26日で実施)を経て選考する。
・動機には、なぜ本実習に参加しようと思うのか、参加後の自己像をどのようにイメージしているか等を論述すること。
・実習中は英語が基本言語となる(必要な場合は翻訳あり)。そのため、TOEFLなど英語力試験の最近の点数がある人は提出すること。ない人は英語力を自己申告(例:問題ない;読みは問題ないがヒヤリングとスピーキングはやや難、など)する。点数よりも、実践的な英語でのコミュニケーション力と姿勢や意欲を優先する。
* 語学研修ではないので、英語力だけで審査されることはない。
・また、事前学習においても関連したトレーニングが求められる。
・学籍番号・所属コース/論系、氏名を明記の上、書式自由。
・提出方法: 教員2名に宛てたメール添付で提出(高野: takano@aoni.waseda.jp 金: kimkmok@waseda.jp)。

備考 : ・2年生以上。満20歳以上を原則とする。
・渡航便や航空券の価格等の事情により、日程の調整はありうるが、実習時間の短縮はない。
・他の教員がさらに加わることもある。

以上